

平成30年(2018)年度学部卒業生フォローアップ調査結果

〈調査概要〉

目的：寄せられた意見を今後の広島大学の教育・研究の改善に活かし、優れた人材育成に繋げていく。

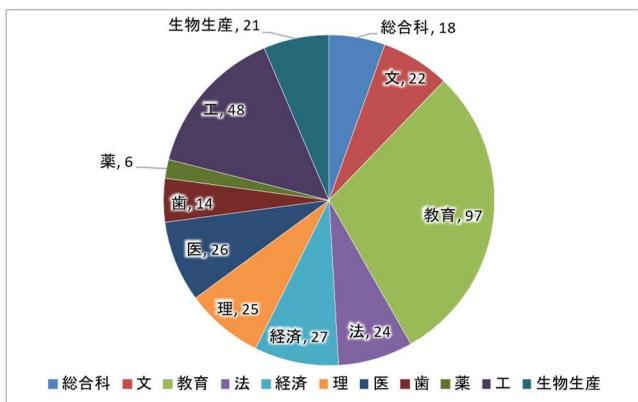
対象：平成30年(2018)年度学部卒業生

方法：入学時の家族住所あてで調査票を送付し本学あて返送。

期間：令和6年12月26日～令和7年2月29日

状況：発送数2490、回収数328、有効数328、回収率13.17%（前年度回収率11.93%）

内訳：総合科学部18、文学部22、教育学部97、法学部24、経済学部27、理学部25、医学部26、歯学部14、薬6、工学部48、生物生産学部21、無回答0

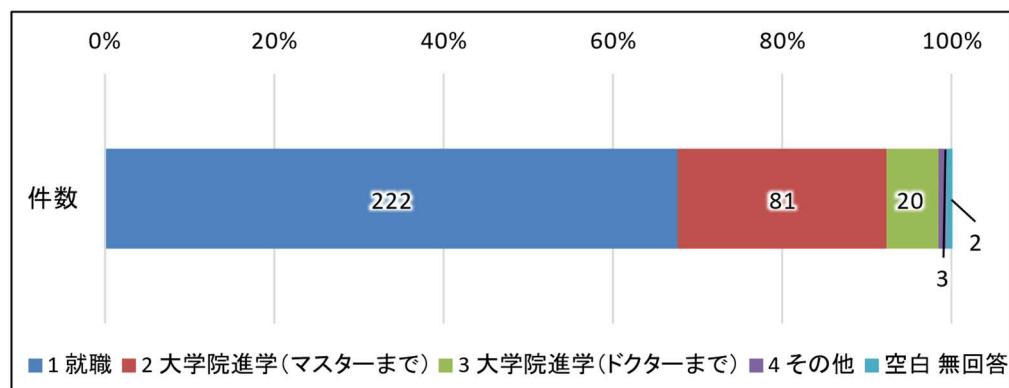


〈調査結果〉

【質問】4. 学部卒業後の進路

1. 就職、2. 大学院進学（マスターまで）、3. 大学院進学（ドクターまで）、4. その他

【結果】



【質問】5. 大学生生活全般の下の項目は、現在どの程度役に立っていますか？

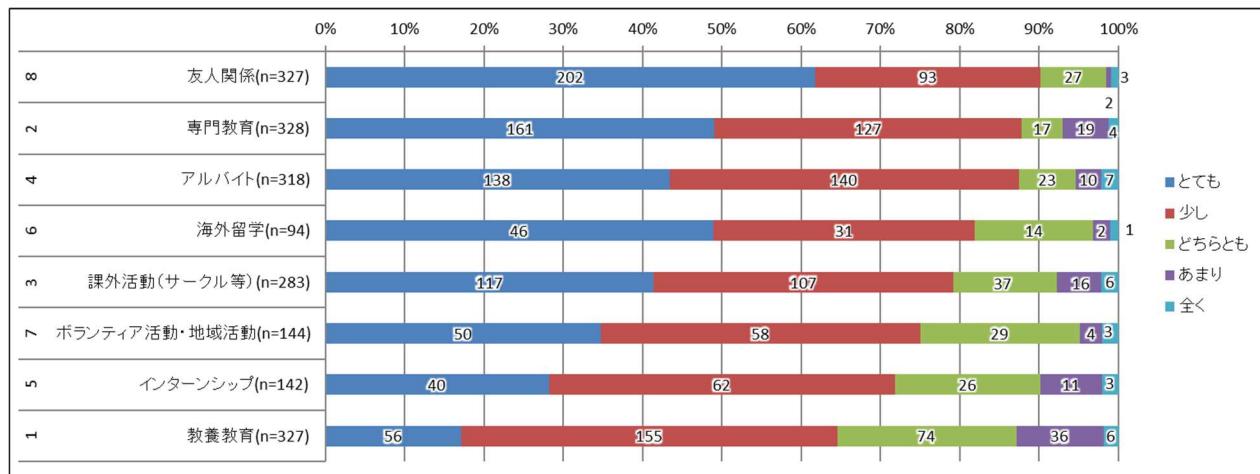
1. 教養教育, 2. 専門教育, 3. 課外活動（サークル等）, 4. アルバイト, 5. インターンシップ, 6. 海外留学, 7. ボランティア活動・地域活動, 8. 友人関係

【結果】(高評価の割合順)

※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。

「該当しない」及び「無回答」は除く。

※H30(2018)年度学部卒業生の回答のうち、「とても」または「少し」を選択した割合が多い選択項目順に並べ替え。



最も評価が高い項目は、1位「8. 友人関係」(90.2%)、2位「2. 専門教育」(87.8%)、3位「4. アルバイト」(87.4%)、4位「6. 海外留学」(81.9%)の順となった。

今回、卒業生からの意見でも「友人」「アルバイト」「人との関係」について述べている内容が多数見られた。主にはコミュニケーション能力の向上に役立っているという主旨で、キャンパスのある地域の特性が有利に働いたという意見も見られた。

また「専門教育」も実務に活かせると実感している卒業生が多くみられた。

「海外留学」について触れられた記述は多くなかったが、語学学習や体験が社会に出て役立っているからこそ高評価に上がっているものと推察される。

(6. 学士課程教育について (1) 教養教育)

【質問】(1) 教養教育の下の項目は、現在どの程度役に立っていますか？

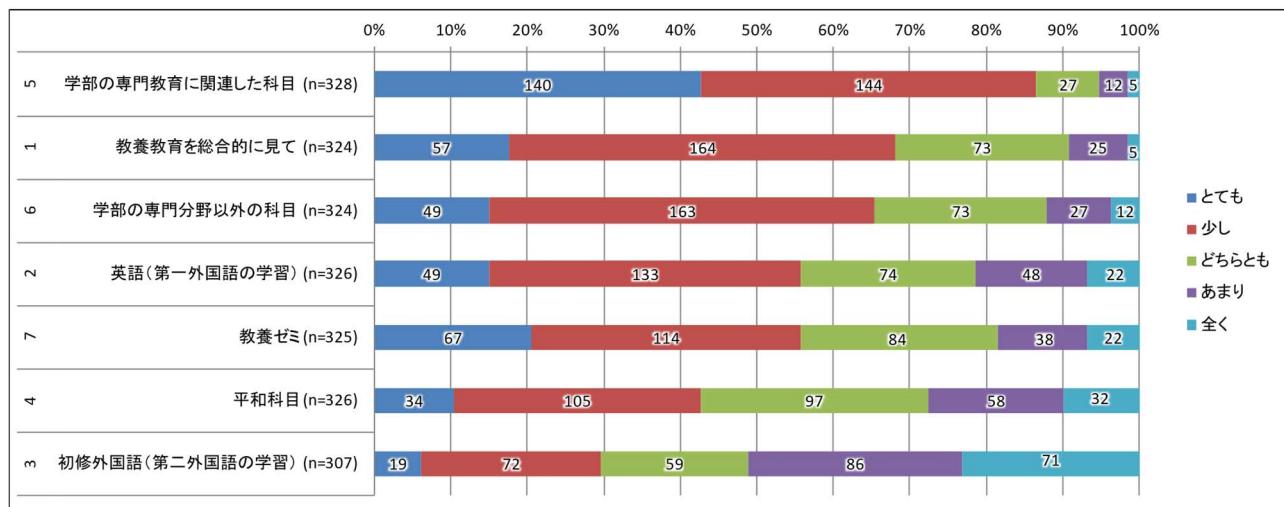
1. 教養教育を総合的に見て, 2. 英語（第一外国語の学習）, 3. 初修外国語（第二外国語の学習）, 4. 平和科目, 5. 学部の専門教育に関連した科目, 6. 学部の専門分野以外の科目, 7. 教養ゼミ

【結果】(高評価の割合順)

※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。

「該当しない」及び「無回答」は除く。

※H30(2018)年度学部卒業生の回答のうち、「とても」または「少し」を選択した割合が多い選択項目順に並べ替え。



最も評価が高い項目は、1位「5. 学部の専門教育に関連した科目」(86.5%)、2位「1. 教養教育を総合的に見て」(68.2%)、3位「6. 学部の専門分野以外の科目」(65.4%)、4位「2. 英語（第一外国語の学習）」(55.8%)の順となった。

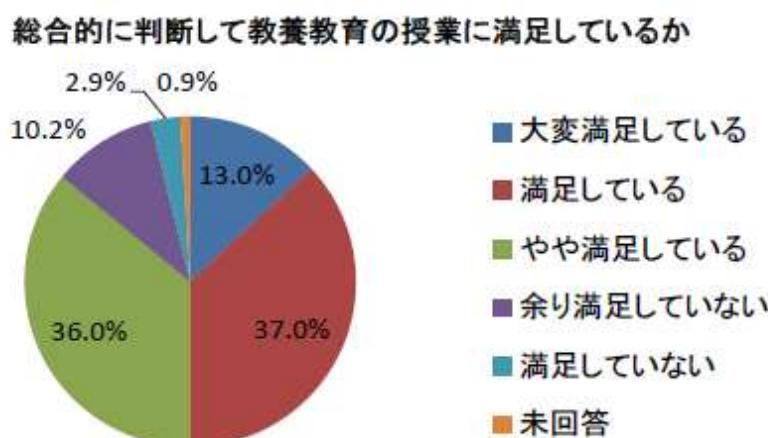
「教養教育」「専門教育」は卒業後も役立っているが、もう少し掘り下げて学びたかったという意見が散見された。意見として多かったのは「平和教育」関連だった。広島県外からの意見とみられるが、全体的に平和への意識が強く印象に残っているようだ。

外国語教育について、主には英語になるが学生自身の取り組みが足らない、学習するレベルが物足りないなどの意見があった。今や様々な分野で英語だけでなく様々な言語が社会で活用されているからこそ、学生時代の学習に取り組む姿勢が足りなかつたと後悔している人が多いようである。

【参考】平成30年度卒業時アンケート『設問：総合的に判断して教養教育の授業に満足しているか』

（「大変満足している・満足している・やや満足している」の割合 86.0%（前年度より 0.5 ポイント減

（1,291 / 1,502 名※未回答除く）



(6. 学士課程教育について (2) 専門教育)

【質問】(2) 専門教育の下の項目は、現在どの程度役に立っていますか？

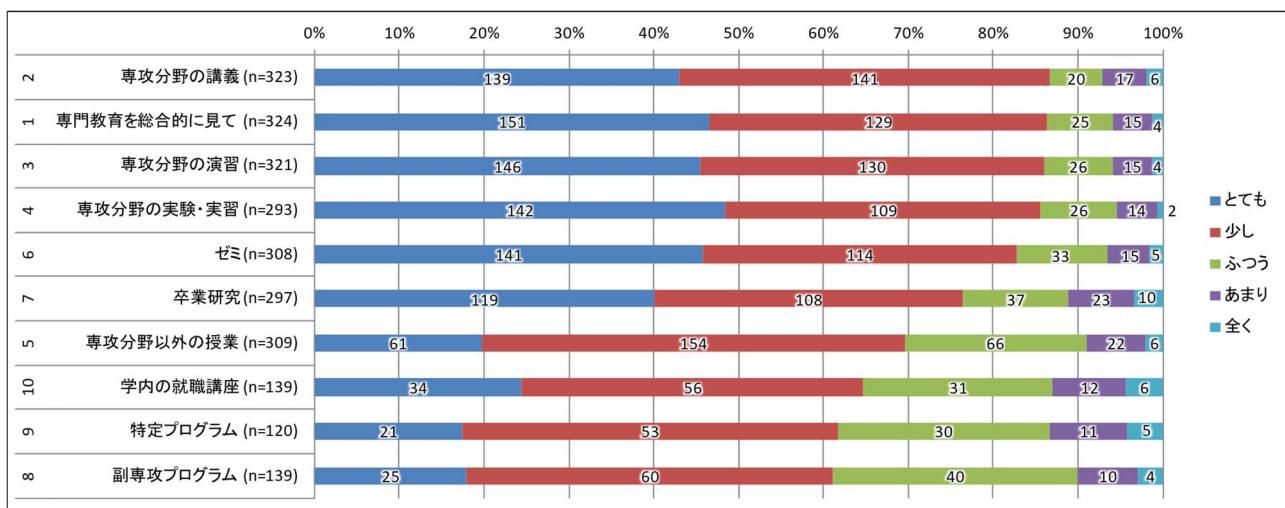
1. 専門教育を総合的に見て, 2. 専攻分野の講義, 3. 専攻分野の演習, 4. 専攻分野の実験・実習, 5. 専攻分野以外の授業, 6. ゼミ, 7. 卒業研究, 8. 副専攻プログラム, 9. 特定プログラム, 10. 学内の就職講座,

【結果】(高評価の割合順)

※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。

「該当しない」及び「無回答」は除く。

※H30(2018)年度学部卒業生の回答のうち、「とても」または「少し」を選択した割合が多い選択項目順に並べ替え。



最も評価が高い項目は、1位「2. 専攻分野の講義」(86.6%)、2位「1. 専門教育を総合的に見て」(86.4%)、3位「3. 専攻分野の演習」(85.9%)、4位「4. 専攻分野の実験・実習」(85.6%)の順となった。

全体的に専攻分野の学習は、内容が就職後の実務に直結しているとのことで大半が役立っているという意見だった。

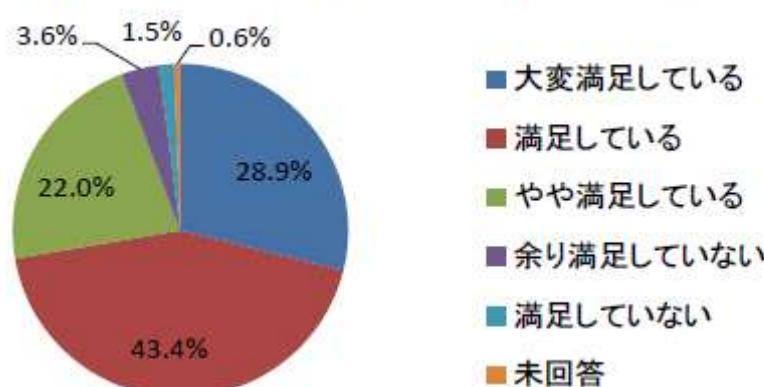
その中で、学習への取り組み姿勢や、キャンパス間の物理的な距離により学習機会を得られなかったことを悔やむ意見も見られた。それも就職後に痛感する事例が散見された。

ただ、どの学部でも大学での学習には高い満足度を示している。

【参考】平成30年度卒業時アンケート『設問：総合的に判断して専門教育の授業に満足しているか』

（「大変満足している・満足している・やや満足している」の割合 94.3%（前年度より 0.2 ポイント増
(1,417 / 1,502 名※未回答除く)）

総合的に判断して専門教育の授業に満足しているか



(7. 学生支援について)

【質問】学生対応・支援で下の項目は、どの程度充実していましたか？

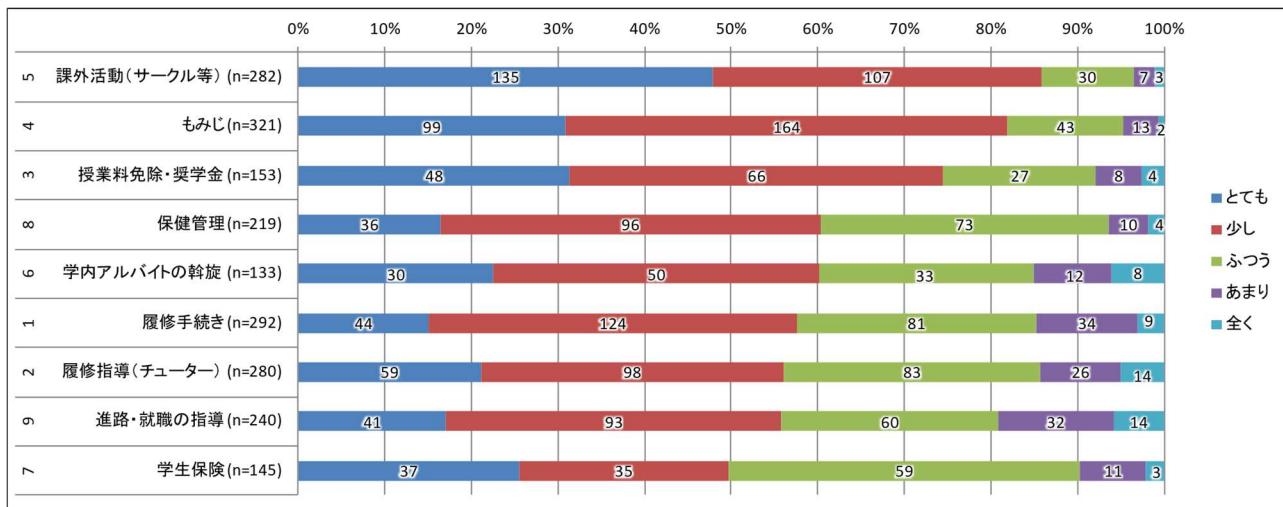
1. 履修手続き, 2. 履修指導（チューター）, 3. 授業料免除・奨学金, 4. もみじ, 5. 課外活動（サークル等）, 6. 学内アルバイトの斡旋, 7. 学生保険, 8. 保健管理, 9. 進路・就職の指導

【結果】（高評価の割合順）

※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。

「該当しない」及び「無回答」は除く。

※H30(2018)年度学部卒業生の回答のうち、「とても」または「少し」を選択した割合が多い選択項目順に並べ替え。



最も評価が高い項目は、1位「5. 課外活動（サークル等）」(85.8%)、2位「4. もみじ」(81.9%)、3位「3. 授業料免除・奨学金」(74.5%)、4位「8. 保健管理」(60.2%)の順となった。

全体的に「サークル活動」「もみじ」について触れている意見が多かった。サークルについては多くが熱心に打ち込み、そこで他者とのコミュニケーション能力を磨く事が出来たようだ。もみじについては概ね充実した情報量が好評で、他大学と比較して優れていると評価した意見もあった。

また様々な面で困った学生が学生会館の職員を頼り助けられ、その対応が高く評価されていた。

就職活動においても同じようにサポートの充実ぶりに満足している意見が多かった。

(8. 学生生活について (1))

【質問】(1) 下のような各項目は、学生時代のあなたにどの程度あてはまりますか？

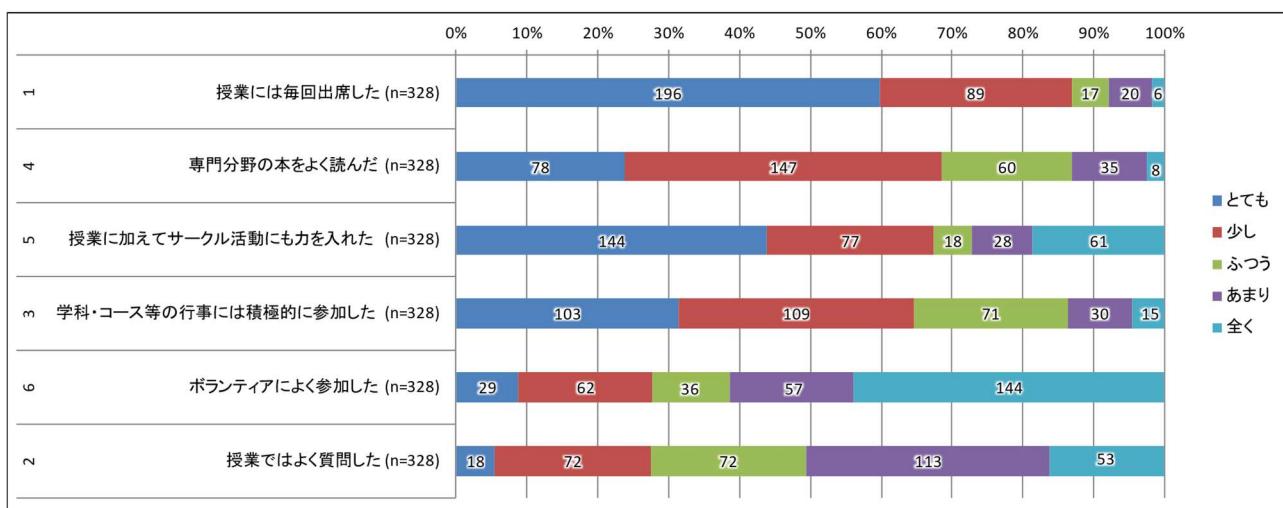
1. 授業には毎回出席した, 2. 授業ではよく質問した, 3. 学科・コース等の行事には積極的に参加した, 4. 専門分野の本をよく読んだ, 5. 授業に加えてサークル活動にも力を入れた, 6. ボランティアによく参加した

【結果】(高評価の割合順)

※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。

「該当しない」及び「無回答」は除く。

※H30(2018)年度学部卒業生の回答のうち、「とても」または「少し」を選択した割合が多い選択項目順に並べ替え。



最も評価が高い項目は、1位「1. 授業には毎回出席した」(86.8%)、2位「4. 専門分野の本をよく読んだ」(68.5%)、3位「5. 授業に加えてサークル活動にも力を入れた」(67.3%)、4位「3. 学科・コース等の行事には積極的に参加した」(64.6%) の順となった。

全体を通して、「授業への積極的な出席をした」という主旨の記述が多くみられたことから、学生生活の主軸が“学び”であったことがわかる。その上でそれ以外の時間を「アルバイト」や「サークル活動」などで充実させ、大多数が振り返りの中で時間やリソースの使い方に反省や改善の余地を挙げながらも“後悔のない学生生活を過ごした”と概ね満足しているようだ。

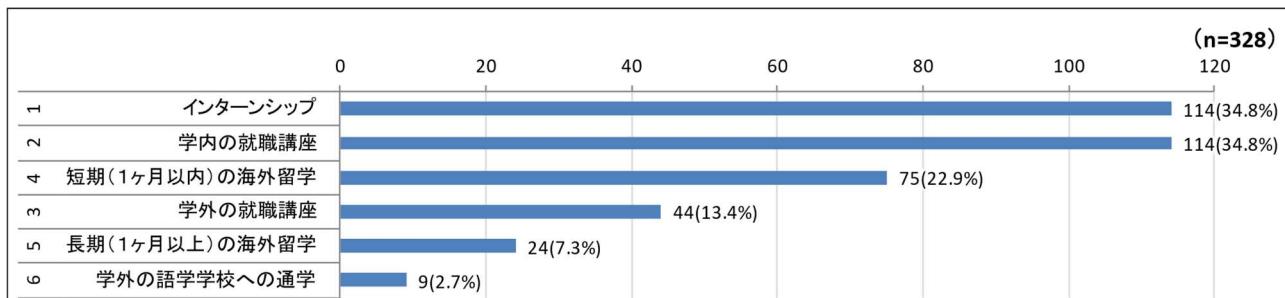
総じて、学生生活では友人や仲間との人間関係が人生における貴重な財産として評価されながら、学びや活動の時間がその後の人生に大きく影響しており、それらの大切さを伝えている。

(8. 学生生活について (2))

【質問】(2) あなたは次のような活動に参加しましたか？該当するものすべてを選択してください。

1. インターンシップ, 2. 学内の就職講座, 3. 学外の就職講座, 4. 短期（1ヶ月以内）の海外留学, 5. 長期（1ヶ月以上）の海外留学, 6. 学外の語学学校への通学

【結果】(該当数の多い順)



(8. 学生生活について (3))

【質問】(3) あなたが現在の学生にアドバイスするとしたら、次のような大学時代の学習や経験をどの程度すすめますか？

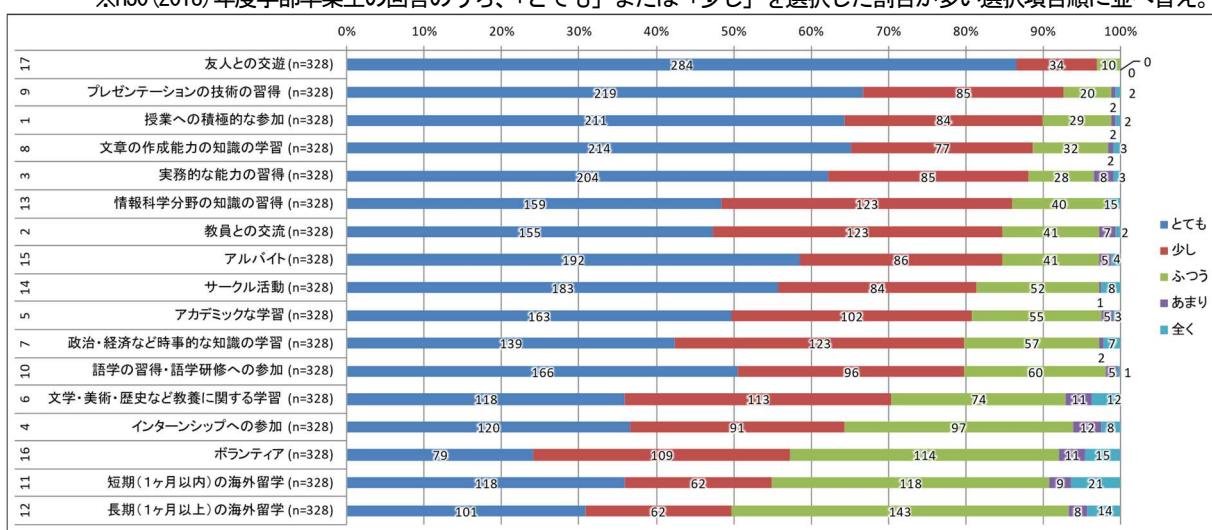
1. 授業への積極的な参加, 2. 教員との交流, 3. 実務的な能力の習得, 4. インターンシップへの参加, 5. アカデミックな学習, 6. 文学・美術・歴史などの教養に関する学習, 7. 政治・経済など時事的な知識の学習, 8. 文章の作成能力の知識の学習, 9. プрезентーションの技術の習得, 10. 語学の習得・語学研修への参加, 11. 短期（1ヶ月以内）の海外留学, 12. 長期（1ヶ月以上）の海外留学, 13. 情報科学分野の知識の習得, 14. サークル活動, 15. アルバイト, 16. ボランティア, 17. 友人との交遊,

【結果】(高評価の割合順)

*グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。

「該当しない」及び「無回答」は除く。

*H30(2018)年度学部卒業生の回答のうち、「とても」または「少し」を選択した割合が多い選択項目順に並べ替え。



最も評価が高い項目は、1位「17. 友人との交遊」(96.9%)、2位「9. プrezentationの技術の習得」(92.6%)、3位「1. 授業への積極的な参加」(89.9%)、4位「8. 文章の作成能力の知識の学習」(88.7%) となった。

全体を通して、「多様な経験を積むこと」「自己の興味を追求すること」「人間関係やネットワークの構築」が非常に重要であるというメッセージが一貫している点が印象的である。それぞれの学部で個別の推奨事項があるものの、総じて学生時代の自由な時間を活かした積極的な行動をするようなアドバイスが見られる。

大学生活を充実させるためには、学業と課外活動のバランスを取りつつ、個人の興味に従い行動する柔軟性が求められているようだ。また、将来を見据えたスキル習得（英語、プレゼン能力、社会経験など）にも目を向け、社会人になった時に役立てられる基盤を築くことも重要であるようだ。

(12. 広島大学学部(2018年度卒業)在籍中に)

【質問】(以下の能力・資質をどの程度身に付けることができたと思いますか。項目ごとにお教え願います。)

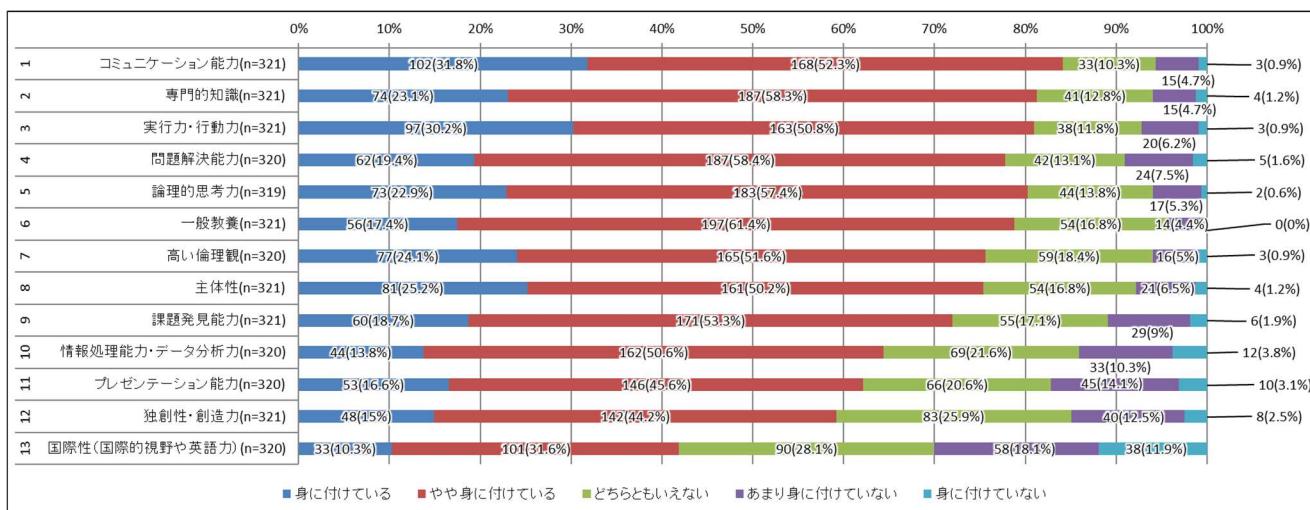
1. 専門的知識, 2. 一般教養, 3. コミュニケーション能力, 4. 主体性, 5. 実行力・行動力, 6. 独創性・創造力, 7. 課題発見能力, 8. 問題解決能力, 9. 論理的思考力, 10. 高い倫理観, 11. 情報処理能力・データ分析力, 12. プレゼンテーション能力, 13. 国際性(国際的視野や英語力)

【結果】(高評価の割合順)

※グラフ中の各項目の右にあるn数は、とても、少し、どちらとも言えない、あまり、全くの合計回答数を表す。

「該当しない」及び「無回答」は除く。

※H30(2018)年度学部卒業生の回答のうち、「とても」または「少し」を選択した割合が多い選択項目順に並べ替え。



最も評価が高い項目は、1位「3. コミュニケーション能力」(84.1%)、2位「1. 専門的知識」(81.3%)、3位「5. 実行力・行動力」(80.9%)、4位「9. 論理的思考力」(80.2%)となつた。